

注意事項 1 解答用紙、草稿用紙ともに受験番号と氏名の記入を忘れないこと。

2 問題用紙、草稿用紙は解答用紙とともに机上において退出すること。持ち帰ってはけない。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

梅原

江戸末期から明治初期に日本を訪れた多くの西洋人は、日本人のことを「ちよんまげをして刀を差している野蛮人」だと思っていた。しかし、接してみると、じつは非常に礼儀正しく、道徳心の強い民族であると感じたのです。いちばんよい例がラフカディオ・ハーン、つまり小泉八雲(怪談『神国日本』などを著したイギリス人の小説家。一八五〇～一九〇四年)で、彼は東京や熊本より、出雲の人間のほうがはるかに礼儀正しく、恥を知っていると言いました。出雲の日本人はいちばん「古代的」な人々の部類に入ると思われますが、あるとき彼らの一人が「恥に耐えかね」といって自死した。ハーンは彼の羞恥心の高さにたいへん驚いています。

また出雲の沖にある隠岐島に行くとき、どの家にも鍵がかかっている。これは村に泥棒がない安心感からくるもので、そんなことは西洋では考えられないとも述べています。小泉八雲だけでなく外国人の多くは、そうした日本人の心性について非常に驚いています。

ただ小泉八雲も、この日本人のよきメンタリテイがだんだん失われていくのではないかと嘆いていました。彼が書物を著していたのは明治二十年代の日本においてですが、近代文明を取り入れることに成功すれば、このメンタリテイが失われるのではないかというのです。実際、その後の日本は「進歩」という思想により立派な国になりますが、一方で道徳的品性がだんだん低くなっていきます。いわば「恥知らず」の人間が多くなった。

日本人にとって「恥」は、たいへん大事な価値観です。「罪」と「恥」を比べたとき、「恥」のほうを重視する。「罪」の観念が内面的なのに対し、「恥」は外面的で浅いものであるといわれますが、けつしてそうではありません。「恥ずかしいことはしない」という深い道徳性に裏付けられていて、だからこそ嘘もいわないのが日本人だったのです。

ある意味では「誇り」であり、それゆえに恥をかかされたら切腹することもあった。その「恥」の観念が、いまやたいへん薄れている。「なぜ恥じることが必要なか」という、まったく無恥の人間が非常に増えています。

稲盛

それを推奨する風潮もあります。「恥など気にしていたら出世はできない」といった内容の書籍が売れたりする。嘆かわしいかぎりです。「恥を知る」という観念は自分を謙虚に見つめることであり、相手への慈しみにあふれた「親切」や「思いやり」の心につながるものだと思います。それが当たり前前に存在した、かつての日本社会はやはりすばらしかった。

長く日本の社会では、旅は歩いてするものでした。足に履くのは下駄か、せいぜいわらじです。もちろん当時にも便利な移動手段として、「車」という概念はありました。たとえば、平安時代以来「牛車」が存在しています。しかし、日本人はそれ以上に発展させようとしなかった。車を馬につないで走らせれば便利なのに、せいぜい駕籠しか使わない。その理由を考えたとき、やはり非常に慎重で、ありあわせのものを使って、みんなが助け合って生きていくという発想があったのではないかと思うのです。その結果、平和で親切で礼儀正しい日本が存在していた。

ところが、近代に入って、欲望の赴くまま、「もっと生産性を上げて、もっと豊かな生活をしたい」と思い始めてから、だんだん「俺が、俺が」となった。人に対する思いやりも薄れ、助け合う気持ちも消えていった。そうして非常に美しい人間性が、どんどんなくなっていくと思うのです。

稲盛和夫 梅原猛『近代文明はなぜ限界なのか』PHP文庫

問一 この文章に、二十字以内で適切なタイトルをつけなさい。

問二 本文中で、著者らが懸念を示している近代日本人の問題点について二百字以内で述べなさい。

問三 本文の主旨をふまえて、あなたが考える理想的な日本人の将来像について六百字以内で述べなさい。